

研究開発課題中間評価結果

事業名（年度）	ワクチン開発のための世界トップレベル研究開発拠点の形成事業 （令和4年度～令和8年度）
研究開発課題名	ワクチン開発のための世界トップレベル研究開発拠点群 千葉シナ ジーキャンパス（千葉大学 未来粘膜ワクチン研究開発シナジー拠 点）
代表機関名（所属 役職）	国立大学法人 千葉大学（未来医療教育研究機構・卓越教授）
研究開発代表者名	清野 宏

【総合評価】 優れている

【評価コメント】

拠点長、拠点長特別補佐、4名の副拠点長の主導により、内外の多数の専門家・研究者の参画を得て、粘膜免疫の研究や経鼻ワクチン等の研究開発に向けて連携体制が構築されている。拠点長の強いリーダーシップと粘膜ワクチン開発を目指すという強いコミットメントの下に、拠点の体制構築や運営が進んでいることは評価できる。一方で、外国籍研究者の割合は低い状況であり、国内外からの優秀な研究者の確保をさらに進めてほしい。

副拠点長（産業界）の調整により、連携企業との包括的な連携協定が締結され、さらに、競合企業が協力して経鼻ワクチンシーズの評価基準の標準化を推進し、連携企業間の協力を引き出すなど、企業連携のモデルとなり得る取組を行っていることは評価できる。

本拠点の最大の強みは、開発の対象を粘膜ワクチンに定め、これまでの研究実績を最大限に活かしたワクチンの研究開発を進めている点にある。粘膜免疫や粘膜ワクチンの研究開発において国際レベルで高く評価される研究成果が得られており、実用化に向けた道筋も示されている。

今後、さらに他拠点・サポート機関との連携を深め、他拠点が持つリード候補ワクチンと相補的な組み合わせのワクチン開発を期待する。抗原とDDSの組み合わせなど、他の拠点と連携することでシナジー効果を生み出すように取り組み、より有効なワクチン開発を目指してほしい。

本事業は感染症有事を見据えた迅速なワクチン開発に資することが目的であり、各拠点で研究開発を進めているワクチンシーズについては、最終的な実装化を意識したタイムラインを設定し、迅速に開発が進むように拠点内で優先順位を明確にして戦略的かつ効率的な研究開発マネジメントを行うことが求められる。

本拠点ではすでに意識付けはなされているが、基礎研究に留まらず、上市されることを視野に入れて本事業を推進し、ワクチン開発を成功させて、粘膜ワクチンを世の中へ出してほしい。また、「新規のワクチンを国内で短期間に実装するという最終目標に基礎研究の側面からどのように関わるか」というゴールを見失わないように拠点運営を進めてほしい。

以上